

6. シティセールスと歴史文化の融合

(1) 富田林市歴史資料館について

- ① 埋蔵文化財センターを拡大してリニューアルし、富田林市が保管している埋蔵文化財や民俗資料、足跡化石資料などを常設展示する富田林市歴史資料館を作ってはどうか？
- ② 市民学芸員を募り、市民と共に運営する展示室などを併設してはどうか？
- ③ 誰でも興味がある定期的な展示などを定着させることで、富田林市に足を運んでもらえるようにしてはどうか？

【答弁】

市立埋蔵文化財センターは、平成3年3月、市立第一中学校敷地内の新南館西側校舎の1階から3階の余裕教室6教室を活用して設置しております。

現状では、設置から約26年経過し、市内の発掘等で出土した多くの埋蔵文化財などで、相当手狭になっているなど、総合的な郷土資料の展示や活用、学習ができる施設の必要性は認識しております。

しかしながら、現在設置していますセンターにつきましては、学校内の敷地であること、校舎の現状から、拡大できる状況ではないことなどから、展示ができるスペースが限られているため、現在は展示テーマにより、寺内町センター、かがりの郷、じないまち交流館、旧杉山家住宅を活用して常設展示をしているところでございます。

また、昨年度から新たに大阪府教育庁との連携事業として、既存の公共施設の活用を図り、すばるホールでは「遺跡ブラ散歩」として市内の遺跡巡りの紹介と遺物の展示公開、旧田中家住宅では「お茶碗のいろは展」として富田林寺内町などで出土した茶碗の展示解説、公民館では「夏休み子ども考古学はかせ」として土器づくりの講座などの企画展示を計画的に実施しております。さらには、学校などへの「出前講座」、市広報誌やウェブサイト、フェイスブックで文化財情報を発信するなど、啓発する機会を増やし、可能などころから興味を持ってもらえるよう努めているところです。

今後は、富田林市に足を運んでいただけるよう、今年オープンした「きらめき創造館」でのスポット展示や講座などを行い、文化財の魅力を発信できるよう、市民ボランティアの募集や文化財に関して活動されている市民団体にもお手伝いいただきながら運営できる方法を検討してまいります。

いずれにいたしましても、本市を取り巻く環境は厳しさを増している状況ですが、シティセールスとして、今後も、より工夫を凝らした展示公開など、埋蔵文化財のみならず、歴史的遺産に興味を持っていただけるよう啓発に努めていくとともに、歴史資料館について、今後の公共施設再配置計画との整合性を踏まえ、既存の公共施設等の状況や埋蔵文化財センターの工夫も考えながら、引き続き、調査・研究してまいります。